

ドイツの魔女って?!



「ヴァルプルギスの夜」

「ヴァルプルギスの夜」という、4月30日または5月1日に中欧や北欧で広く行われる行事があります。古代ケルトの民族が春の訪れのお祝いとして行っていたそうです。5月1日の前夜に魔女たちが集まり、激しく踊ったりする（悪魔崇拜）と伝えられてきました。ヴァルプルギスの夜はキリスト教到来以前の異教の春の風習にちなんでいます。この名前は8世紀に聖ワルプルガの尼僧によって名づけられました。ドイツではこの風習は、ヴァルプルギスナハト (Walpurgisnacht) またはヘクセンナハト (Hexennacht) 魔女の夜という意味）と呼ばれています。魔女の夜は4月30日の日没から5月1日未明にかけての夜、魔女たちがブロッケン山に集まり、彼らの神々とお祭り騒ぎをし、春の到来を待つという伝承として伝えられています。ブロッケン山は中央ドイツ北部にあるハルツ山地の最高峰です。この山はブロッケン現象と呼ばれる自然現象と、魔女の酒宴がヴァルプルギスの夜が催されることで有名です。



「たづね」も良い日?

地方によって違いますが、私の地方や南ドイツの田舎では、魔女の夜に若者たちが悪ふざけをする文化が残っています。例えば隣人の庭をいじくったり、他人の物を隠したり、遠いところに置いたり、落書きをするといったことです。これらの悪ふざけは、時にやりすぎると問題になります。大体は憎めないけど、ちょっと面倒をかけるといったレベルです。他の人もその習慣を理解しているので、準備をしてお

きます。私の家族は、庭に置いてある動かしやすいものを家の中に避難させておくなどしました。次の日には、ちよつと不安な気持ちで自分の家の周りをチェックします。大体準備をしていなかったお隣さんの庭にある小人の人形が家の方に移動していたり、家に入るのを忘れてしまった靴拭きがなくなったりしていました。私も、12歳から地方へ引っ越した19歳まで、たまにいたずらしました。魔女の夜はやっぱり特別な雰囲気です。いたずらは周りからなんとか許してもらえなくても、もちろん見られないように気を付けないといけません。面白いいたずらを考えて、実行するときは、アドレナリンが結構高くなります。魔女の夜に友達と遊びに行く前、お母さんがいつも「大変なことをしないでね!」と、お父さんは「俺も様々ないたずらをしたけど、1回も見つかったことはない。見つからないことが大事だよ。気を付けて楽しんでね!」と言っていました。他の地方にも似たような習慣があるらしいです。

5月を祝うお祭りは、今も「五月祭」(メイフェア)としてヨーロッパに残っています。4月30日には様々なパーティーが行われています。文化が違って面白いものですよ。

国際交流員リンの「びっくり〜ン箱」第1回  
イースターイベント

以前下野市にいた国際交流員のように、これから国際交流員全体のイベントの場合、「びっくり〜ン箱」という名称を使いたいと思います! 意味はわかりますよね? 「びっくり」+「リン」=「びっくり〜ン」です。よろしくお願ひします! 絵の具を使ってイースターの卵を作りましょう! 国際交流員のリンさん(ドイツ人)が「伝統的なイースターエッグ作り」の習慣を教えてください。折角ですので、イースターエッグのデコレーションをしながら、一緒にイースターブランチを食べませんか? 子供はもちろん大人も大歓迎! みんなでドイツの遊びを体験しましょう!

●日時 5月27日(日)  
午前10時〜午後1時

●場所 国分寺公民館 調理室  
(ブランチの後で第二研修室へ移動します)

●参加費 一般400円

●申込み期間 10歳以下はそれぞれ半額  
5月14日(月)〜24日(木)

●定員 20名

●問い合わせ先

生活安全課 ☎(40)5555  
✉sia.shimotsuke@gmail.com